

秋期オンライン授業に関する調査結果のご報告

先般、実施いたしました「秋期オンライン授業に関する調査」および2019年度と2020年度の「秋期授業に関する学修状況調査（総括）」の調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。詳細については高等教育開発センターWebサイトをご確認ください。

記

報告1. オンライン授業に関する調査

【調査概要と集計結果】

調査名称：秋期オンライン授業に関する調査

目的：八王子キャンパスのFD活動の一環として、秋期に実施した全科目を対象とした調査を行い、学生のオンライン授業での学習状況を把握・分析し、その結果を教員にフィードバックすることで、今後の授業改善や授業開発に寄与する。また、春期に実施した同調査の結果と比較することにより、オンライン授業に関わる研修や各教員の経験に基づく授業改善の成果を明らかにし、内部質保証のデータとして蓄積する。

期間：2021年1月19日（火）～2021年2月7日（日）

対象：大学・短期大学の正規生（調査はすべての開講科目で実施）

総開講科目数：2,968、総履修件数：140,707件、有効回答数：14,292件
学年別回答者/対象者数

学年	回答者数	対象者数	*回答率
1年	938	3,586	26.2%
2年	435	3,476	12.5%
3年	319	3,775	8.5%
4年	399	3,792	10.5%
全体	2,091	14,629	14.3%

*履修科目のうち一つでも回答した学生の割合

【設問一覧】（5件法による回答：赤字は春期調査と同様の質問項目）

問1. この授業はオンライン授業を何回実施しましたか

問2. この授業は双方向型（ZOOM等）の授業を何回実施しましたか

問3. この授業について、LMS上での教材（PDF資料と音声等）提示の仕方は分かりやすかったですか

問4. この授業の教材は、内容がよく理解できるようになっていましたか

問5. この授業はオンラインでも十分に学習を進めることができましたか

問6. この授業では、到達目標を理解するのに十分な説明や取り組みがありましたか

問7. この授業では、成績評価方法や評価基準を理解するのに十分な説明や取り組みがありましたか

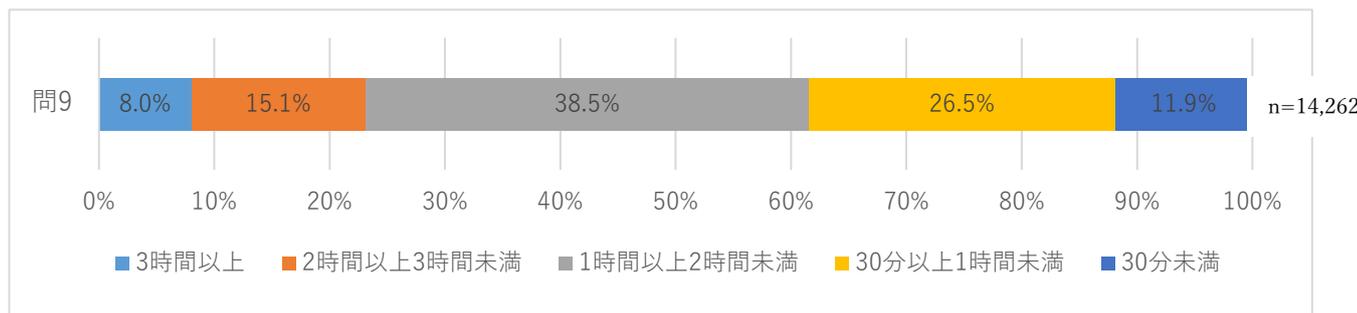
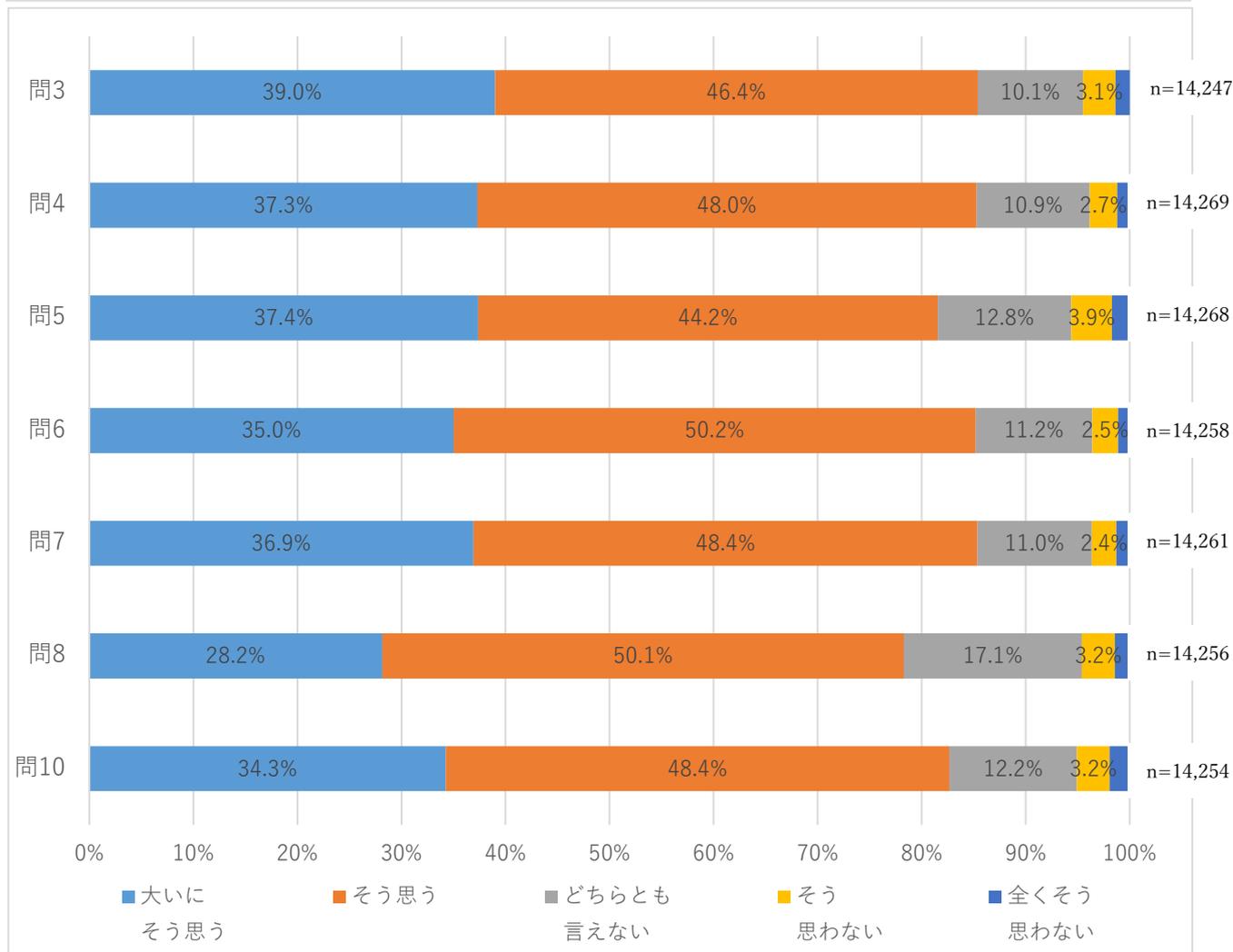
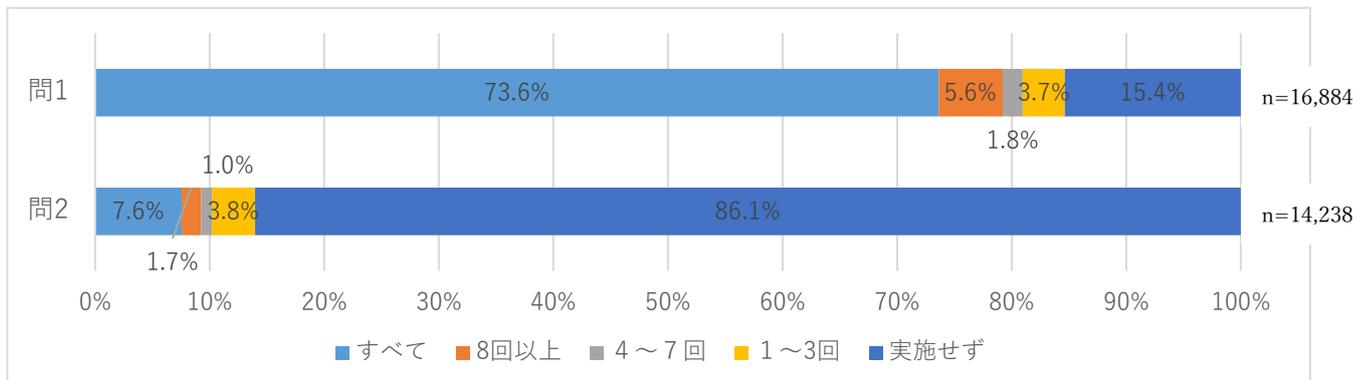
問8. あなたは、この授業の到達目標を達成できたと思いますか

問9. あなたは、この授業の学修（課題やレポートの作成、予習、復習も含む）を1週あたりどの程度行っていましたか

問10. あなたは、総合的に見て、この授業に満足していますか

【回答集計】

問1において「実施せず」が選択された場合は、本調査の対象外である全ての授業を対面で実施した科目の受講者の回答とみなし、無効回答とし、問2以降の集計から除外した。



【量的調査項目】

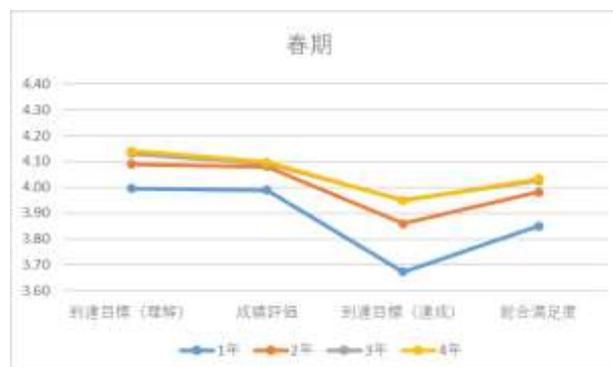
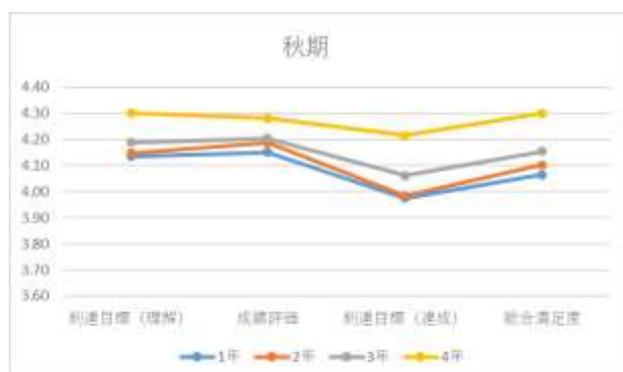
学年別平均

問1、2、9を除く、各設問について回答を「全くそう思わない：1」～「大いに思う：5」で得点化し、算出した平均値についてグラフ化して比較。



春期オンライン調査との比較

秋期と春期で同一の4つの設問（到達目標（理解）、成績評価、到達目標（達成）、総合満足度）について回答を「全くそう思わない：1」～「大いに思う：5」で得点化し、算出した平均値についてグラフ化して比較。



まとめ；量的調査項目

授業実施形態を尋ねた問1、問2、学修時間を尋ねた問9以外は「大いに思う」～「全くそう思わない」の5段階で尋ねた。これらの設問では、問10の総合的満足度を含め、すべて「大いに思う」「思う」という回答が約8割を占めており、多くの学生が秋期に実施されたオンライン授業に対して、肯定的な回答を示した。ただし、「到達目標の達成」を尋ねた問8については、春期同様「どちらとも言えない」「そう思わない」「全くそう思わない」の回答の割合が若干高く出ている。

回答選択肢が異なる問9「当該授業の1週当たりの学修時間」については春期同様、約8割の回答において、2時間未満の学修にとどまっている。ただし、春期の調査と比較すると、1時間未満という回答が減り、全体的に学修時間が少し長くなっていることが見てとれる。

秋期調査と春期調査の同一の設問4件について平均値を比較した結果では、春期では1年生の平均値が他学年の平均値より4設問とも下回っていたが、秋期では1年生と2、3年生の平均値のポイントとの差がほとんどなくなり、他方、4年生と他学年とのポイント差が広がる結果となった。1年生と4年生の平均値は全ての設問で上がっており、特に「到達目標の達成」や「総合満足度」が伸びている。

【自由記述】

問 10. 「あなたは、総合的に見て、この授業に満足していますか」に対して、「大いにそう思う」「そう思う」を選択した回答を総合満足度高群、「どちらでもない」～「全くそう思わない」を選択した回答を総合満足度低群とした。

総合満足度高群の自由記述

総合満足度高群の自由記述について、実際の学生のコメントとともに紹介する。

①オンライン授業のメリット

自分のペースで学習できる、何度も繰り返し講義を聞ける、オンライン上の教材にアクセスがしやすいといったオンライン授業のメリットに関するコメントがみられた。

- ・「オンラインだったので、わからないところは繰り返し聞けたし、自分のペースで進めることができて、より理解が深まった」
- ・「オンライン形式だと、テキストの音声を繰り返し聞く時間が自分のペースで用意でき、また、テキストから提供された映像教材へのアクセスもその場でできたので、オンライン形式がうまく活かされた授業だったと思う」

②オンライン上での他の学生との学び合い

LMS の掲示板や Zoom を利用した授業では、オンライン上でも他の学生と関わりながら学ぶことができたといったコメントがみられた。

- ・「よかったと思う点は、他の学生の解答や課題を掲示板に提示する課題があったことで、自分と比較できたことです」
- ・「何度か Zoom によって、クラスの方と話し合い活動の機会をいただけたので、実践的な学びも得ることができたと感じています。クラスの方とのコミュニケーションの時間も得られたのもとても大きかったです」

③課題や小テストによる復習の機会

小テストや課題を行うことで、授業の復習をすることができた、といったコメントがみられた。

- ・「いつも講義の後に小テストを行うことで、意欲的に復習することができたので良かったです」
- ・「毎回のワークシート記入、提出をすることで学習を復習しながら学ぶことができた」

総合満足度低群の自由記述

総合満足度低群の自由記述について、以下に簡潔に記す。

①オンライン授業のデメリット

オンライン授業は対面授業と比べると、分からないことをその場ですぐに教員に質問できないといった、オンライン授業のデメリットに関するコメントがみられた。

②授業資料の不足、分かりにくさ

音声ファイルや PDF などの資料がない、または、内容が不十分なため、授業内容を理解するのが難しいといったコメントがみられた。

③課題の評価に関する説明の不足、フィードバックがない

課題の評価に関する説明がない、課題に対するフィードバックがないため、自分の理解が正しいのか分からない、課題に取り組んでも学びが深まらないといったコメントがみられた。

報告 2. 授業に関する学修状況調査（総括）：2019 年度秋期と 2020 年秋期の比較

【調査、分析データの概要】

目的： 八王子キャンパスの FD 活動の一環として、毎期に実施している授業に関する学修状況調査（いわゆる授業アンケート）の対面授業であった 2019 年度秋期の結果とオンライン授業であった 2020 年度秋期の結果を同一科目にて比較することで、科目や教員によってはオンライン授業の方が学修効果を得られる可能性について検証する。

対象科目： 2019 年度秋期と 2020 年度秋期の両調査に回答があり、同一教員が授業を担当した 394 科目を対象とした。報告 1. オンライン授業に関する調査の間 1 「この授業はオンライン授業を何回実施しましたか」に対して、回答者の過半数が「すべて」または「半分以上」を選択していた科目を、2020 年度秋期の授業をオンラインで実施した科目、それ以外を対面で実施した科目とみなした。その結果、授業をオンラインで実施した科目は 214 科目、対面で実施した科目は 180 科目であった。

設問項目： 2019 年度秋期調査と 2020 年度秋期調査で共通した設問

問 1. あなたは、この授業にこれまでどの程度出席しましたか

問 3. この授業では、教員は学生の質問や発言などに対応してくれましたか

問 9. あなたは、この授業で分からないことや疑問に思ったことについて、主にどのように対応していましたか

【分析結果】

問 1. あなたは、この授業にこれまでどの程度出席しましたか

2020 年度秋期にオンラインで授業を実施した 214 科目の回答を年度で比較した。授業をオンラインで実施した 2020 年度は、授業を対面で実施した 2019 年度に比して、「欠席なし」の割合が大幅に増え、「1 回欠席」「2～3 回欠席」の割合が減っている（図 1）。

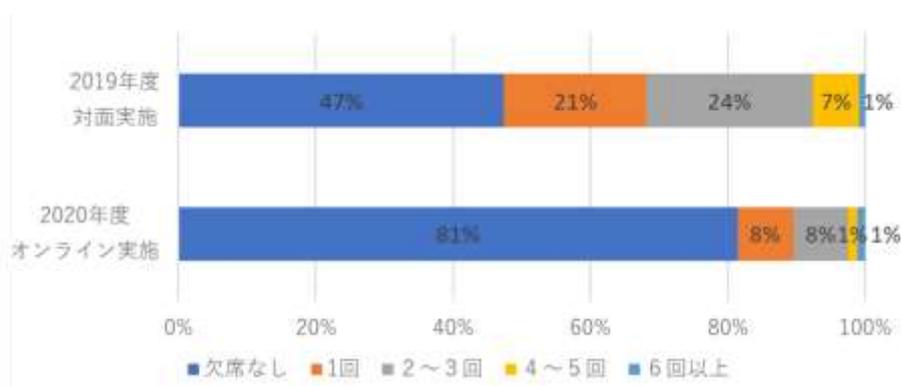


図 1. 問 1 の回答

問 9. あなたは、この授業で分からないことや疑問に思ったことについて、主にどのように対応していましたか

2020 年度秋期にオンラインで授業を実施した 214 科目の回答を年度で比較した。授業をオンラインで実施した 2020 年度は、授業を対面で実施した 2019 年度に比して、「そのままにした」「教員に質問」の割合が減り、「自分で勉強」の割合が大幅に増えている（図 2）。

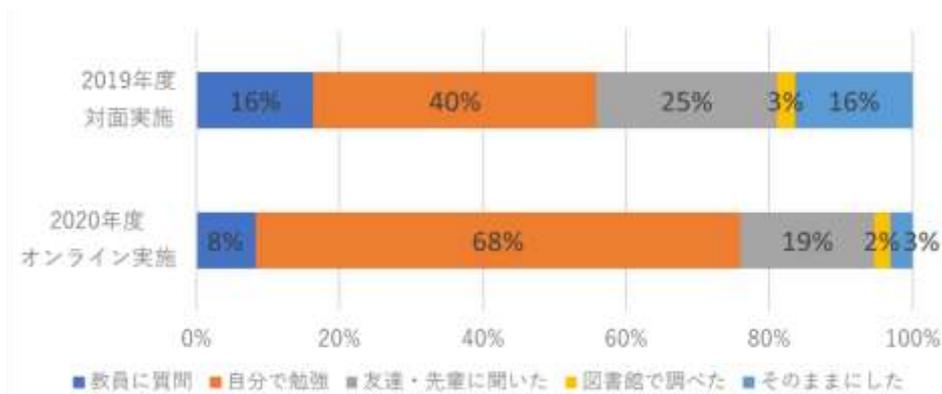


図2. 問9の回答

問3. この授業では、教員は学生の質問や発言などに対応してくれましたか

年度（2019年度、2020年度）、および、科目（対面継続科目、オンラインに変更科目）によって、回答の得点に差がみられるかを検討した。2020年度に対面で授業を実施した科目（180科目）では、年度間で得点に差はみられない一方、2020年度にオンラインで授業を実施した科目（214科目）においては、2019年度から2020年度にかけて得点が下がっている（図3）。

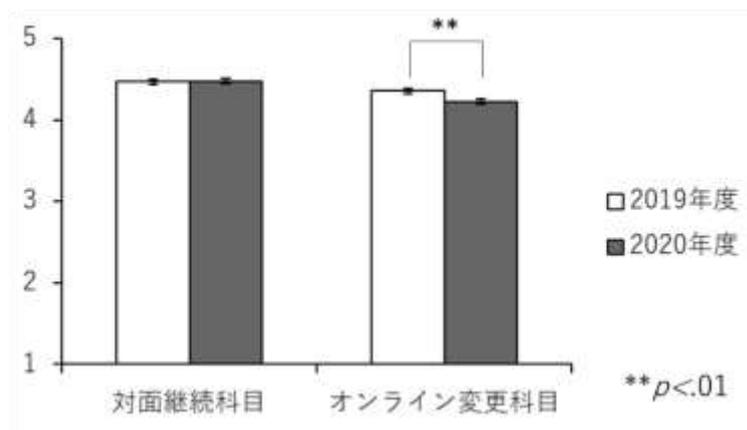


図3. 問3の回答の平均値

まとめ

問1の結果から、オンラインで授業を実施すると、出席頻度が高まることが示された。また、問9の結果から、オンライン授業では、分からないことをそのままにせず、自分で勉強する傾向が示された。これらのことは、好きな時間に学習できる、自分のペースで学習できるといった、自由度が高いオンラインでの学習がもたらす成果であると考えられる。

一方、問9の結果から、オンライン授業では、分からないことがあった際教員に質問をすることが減る傾向が示された。また、問3の結果から、オンライン授業で授業を実施すると、「教員が学生の質問や発言に対応してくれたか」に対する評価が下がることが示された。これらの結果から、オンライン授業において、教員への質問のしづらさが課題として挙げられる。

<本件問い合わせ先>
 帝京大学 企画グループ高等教育開発チーム
 ☒ : ctl@main.teikyo-u.ac.jp